

# 1. 調査報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	1070101827
法人名	社会福祉法人 光塩会
事業所名	グループホーム 菜の花
所在地 (電話番号)	群馬県 前橋市 上増田町 600番地 (電話) 027-266-8808
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県 前橋市 大友町 2-29-5
訪問調査日	4月24日

## 【情報提供票より】( 20年 4月 7日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 16年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	9 人
利用定員数計	9 人
常勤	3 人
非常勤	6 人
常勤換算	9 人

### (2)建物概要

建物形態	併設/ <input checked="" type="radio"/> 単独	新築/ <input checked="" type="radio"/> 改築
建物構造	木 造り	
	1 階建て	1 階 ~ 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有( 円) <input type="radio"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 50000 円) <input type="radio"/> 有りの場合 償却の有無		<input checked="" type="radio"/> 有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		2000 円	

### (4)利用者の概要

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	5 名	要介護2	2 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 81 歳	最低 64 歳	最高 96 歳		

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	上毛病院 文京歯科医院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは静かな田園にあり隣には介護施設がある。共同スペースからは大きな窓から庭が眺められる。手入れの行き届いた庭には季節の花が植えられている。また高架道路が見え車の流れ、空の移り変わりから季節が感じられる。地域との交流は積極的に行われている。利用者は地域の行事に誘いを受け参加している。また利用者の役割分担がありそれぞれの特技を取り入れた仕事の分担が用意されている。管理者と職員は利用者の力を発揮してもらうために1人ひとりの分担を話し合い、その人に合ったケアの支援に取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	介護計画の見直しでは期間が示されていて、見直しがされている。緊急時の手当ては改善されている。継続的な研修はまだ実施されていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義や目的は理解している。今回の自己評価は職員の意見を取り入れながら管理者が作成をしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議は定期的開催されている。ホーム側からは利用者、家族、職員が参加し、現状の報告などがされている。利用者・家族の意見、希望なども聞かれている。自治会長さんから地域の情報や利用者の行事参加などの誘いを受け、利用者は参加をしている。家族からの希望などを検討して実現できる事は介護の現場に取り入れられている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	要望や苦情相談は文書で明示してある。運営推進会議でも家族の意見、要望などを聞いている。また家族が面会に訪れた時には、さりげなく会話の中から汲み取るように職員は苦情など言い易い雰囲気作りを心がけている。家族の意見は運営に反映されている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域との交流は野菜をもらったり、散歩時には声を掛け合ったりしている。地域の行事などの誘いを受け、利用者が参加をしている。神社の行事や花のきれいな場所、5月人形の貸し出しなどの情報ももらって、利用者の地域参加が実現されている。

## 2. 調査報告書

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を掲げてケアの実践に生かしている。地域と共に支えあう関係が築かれている。地域の人達との交流スペースの建設が予定されている。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は採用時に理念を伝えている。また毎日のミーティングの時にも話し合い、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の人達とは散歩の時に挨拶を交わしたり、野菜などいただいたりしている。子供たちとの声掛けなども積極的に行っている。また敬老会や文化祭などにも参加をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を伝え、職員全員で見直しに取り組んだ。職員からの提案も取り入れられている。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的を開催しており、事業所からは利用者の状況・行事などを報告をしている。参加者からは地域の情報・行事などを知らせてくれる。会議での意見等はサービスに取り入れられ生かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は電話での連絡のほか申請の代行、運営推進会議の予定など、市のほうに出向き積極的に機会を持っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	菜の花便りを発行している。家族の訪問時にはケース記録、写真などを見ていただいている。また金銭の報告なども確認をしてもらっている。その他電話でも健康状態や現況などを報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族から「面会の時に記録を見せて欲しい」という意見が出て、ミーティングを行い実行している。家族同士の交流もあり、意見を出しやすい雰囲気作り心がけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動などは最小限に抑えるよう努力している。職員の異動は運営推進会議で報告をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は研修が大切であることを理解しているが、職員は研修にほとんど参加していない。	○	管理者は研修の重要性を理解していることもあり、今後は研修への参加を予定している。徐々に全員が参加できるような方向に繋げていってほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入している。グループホーム大会にも参加をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人と家族にまず施設を見てもらい、雰囲気を感じてもらおうようにしている。不安の強い人の時には家族と協力して面会を多くしたり、電話で安心してもらったりしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩と敬い介護にあたっている。料理、洗濯など教えてもらっている。また畑仕事など季節ごとに何を作ったらよいか教えてもらっている。利用者はそれが喜びとなっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で会話の中からそれとなく本人の意向などを確認している。運営推進会議の中でも利用者の希望などを確認している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族には日々の係わりの中から希望や意向を聞き介護計画に反映させている。職員はミーティングの時など情報を交換し計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月に1度行われている。また状況に変化があったときには計画の見直しを行っている。本人、家族等に説明をし意向や要望を確認している。	○	モニタリングを行う事により見直しの内容が具体的に分ってくるので、モニタリングの記録をお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院支援や美容院への送迎。また利用者の希望により墓参りなどの支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望のかかりつけ医が選べる。協力病院以外でも希望があれば受診できる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化した場合の説明を行っている。状態にあった利用を本人、家族などの意向を確認し支援している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけを心がけている。個人情報の取り扱いには注意し必要な時はイニシアルなどを用いている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態に合わせたケアを心がけている。体調に合わせて行事なども無理のないようにしている。起床時間もその人に合わせた時間の対応がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者はメニューを希望したり、調理に参加したり、食事を楽しむ事が出来る。職員も一緒に利用者と食事をとっている。後片付けも利用者は職員と一緒にしている。	○	利用者と食事を一緒にとる職員は1人と決めているが、職員全員が食べられるように検討をお願いしたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2～3回の入浴となっているが利用者が希望した場合には希望に合わせて入浴が出来る。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、ごみ捨て、台所手伝い、畑仕事、犬の散歩、皿洗い、片付けなどの役割が用意されている。またドライブ、買い物、花見など気晴らしの支援がされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物、ドライブ、花見など日常の生活の中で外気に触れる機会を支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけないケアを行っている。職員は見守りを大切に鍵をかけないケアを実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回利用者と共に避難訓練を行っている。夜間を想定した訓練も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の利用者記録はされている。水分量の記録が取れていない。	○	利用者1人ひとりの1日全体での食事量と水分量のチェックがあれば、脱水等の予防につながると思われる。職員全員で情報の共有をするように期待する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下など日本的な引き戸や障子風デザインとなっていて落ち着いた雰囲気を持たせている。ホールからは外の景色がガラス越しに見える。庭には季節の花が咲いていて、野菜も作っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には整理ダンス、椅子、テーブル、家族との写真、絵画など持ち込まれている。一人ひとりが安心して過ごせる環境があり個性が表されている。		